



えば、そのファンが見に来てくれます。それは私が月に1度開くアトリエ開放の「ボンドバ」に毎回、100人位のお客さんが足を運んでくれることで実証済みでした。そこでしか見れない作品だからこそ、人を呼ぶ新たな観光資源になると思ったんです」と力強く語ります。

.....

うことか』などの声もあり、難航。その中で「Barばらーど」のオーナーが描いてほしいと依頼されました。

「家主さんの好みや希望に沿うような、アーティストをマッチングするのが大変でもあり、面白いところ。時には何度も下書きを持って家主さんと打合せすることもあります。ばらーどのオーナーはジャズの絵を希望されたので、JAZZバンドを描くアーティストに頼みました。仕上がり

.....

に大変喜んでもらえ良かったです」と笑顔で当手を振り返る富永さん。

そこから、自分の店にも描いてほしいという声が相次ぎ、これまでに18の作品が完成しました。

商店街の人たちも作品を見に足を運ぶ若者や家族連れの姿も見られるようになり、「まちが明るくなった」と喜びました。

.....

作品を描いてもらうこと。1000の作品を見にきた人が市内を巡り、多久の魅力に気付いてもらうことです。また、みなさんの協力をいただき、多久初のギャラリーを誕生させることができました」とさらなる意欲を燃やします。

「アートに失敗はない」という信条を胸に、大学に勤めるかわら、各地でライブペイントを行いながら「アートのまち、多久」を目指し、富永さんはさまざまな取り組みにチャレンジしています。